

# 市ケ尾中Times

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/ichigao>

<学校教育理念>

## 自立貢献

発行者：校長 竹下 恭子  
市ケ尾中 Tel 045-973-3400

### 持続可能な市ケ尾中学校

副校長 田上 智之

師走を迎え、朝夕はととも寒くなり、木枯らしが舞う季節になりました。市ケ尾中学校の樹木も紅葉から枯れ葉となり、落ち葉となって校庭を舞う中、子ども達が昼休みや体育の時間、部活動と元気に走り回り、楽しそうに活動している姿を見て、「やっぱり子ども達がいる学校っていいな」と改めて思います。

皆さんも知っての通り、市ケ尾中学校はSDGsについて学び、日々の授業や行事など、様々な場面で取り組み、実践しています。今日はあまり知られていない「持続可能な市ケ尾中学校」について紹介してみようと思います。

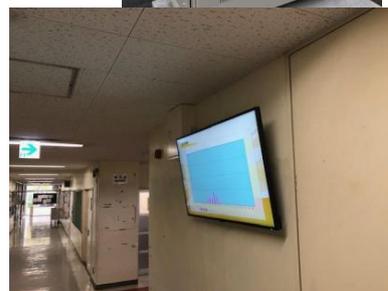
学校にはいろいろな工事が入ります。これは生徒の皆さんの学校生活をよりよくしていくためです。例えば昨年度、特別教室(美術室や理科室、図書室など)にエアコンが入り、今年度はコロナ対策としてシールドが設置されました。また今年度の大きな改修工事のひとつにスロープ付近の雨漏り防止工事がありました。夏休み前後にかけて足場を組んでの大規模な工事になりました。台風など強い風が伴う大雨の時によく発生していた3階のスロープから縦に美術室前までの雨漏りに対しての工事です。よく雨の後に、スロープに敷いている細木が浮いてしまい、一部コーンを置いて処置していましたが、雨漏り部分はなかなか修理できずにいました。今回はやっと



雨漏り自体の修理ができたので、これからは雨が降った後も安全に通行することができるようになりました。もうひとつの大きな工事が、太陽光発電パネルと蓄電池の設置です。この設置の目的は、この地域で大規模災害が発生した時の対策本部は青葉区役所になりますが、鶴見川が氾濫して区役所が水没してしまい、機能が麻痺してしまった時の臨時の本部が市ケ尾中学校になるためです。災害時には停電することも予想されるため、昨年度に太陽光発電用のパネルが屋上に設置され、今年度に入ってその電気をためることができる蓄電池が設置されました。どのようにためられているかは1階の体育館に抜ける廊下、職員玄関



前に大型モニターがあり、そこで蓄電の様子を見ることができます。ちなみにそのモニターは最初、手のひらサイズの小さいものが予定されていたのですが、学校に置くのだから子ども達が見ることで環境問題に興味を持つような、みんなで見ることのできる大きなモニターの方がよいということで実現したモニターです。普段あまり見ないでスルーしている生徒の皆さん、今度ぜひ足を止めてモニターに映る時間ごとの蓄電棒グラフを見てみてください。そんな隠れたSDGsが市ケ尾中学校にはあるのです。



## 令和2年度市ケ尾中学校区横浜子ども会議を開催しました

11月27日(金)今年度の市ケ尾中ブロック(市ケ尾中、東市ケ尾小、荏田西小)の横浜子ども会議を開催しました。今年は感染症拡大防止の観点からブロックで集まる回数や人数を最小限に抑えての開催です。令和2年度の全市共通テーマは「だれにとっても」居心地の良い学校づくりです。

簡単な自己紹介を行った後、市ケ尾中36期生徒会本部役員の進行を中心に話し合いを行いました。各校で予め話し合ってきた次の内容について、どんな意見が出たか共有しながら進めていきました。

- ① だれにとっても居心地のよい学校とは
- ② 便利と居心地のよさの違いとは
- ③ こんな学校はいやだ
- ④ 市ケ尾中ブロックでできること

特に④では、学校に関わる大人も地域の方も、小中学校に関わるみんなにとって居心地の良い学校になるために自分たちができることについて、取組の具体が出されました。

- ・図書ボランティア、環境ボランティア、地域の方へ感謝の言葉を伝える。・もっと話し合いをする
- ・SDGsに関心を持ってもらう活動をする・あいさつ運動をする。・他学年との交流・校舎をきれいにする

今後は引き続き④で出た意見を自分たちの学校に持ち帰り、「居心地の良い学校」を作っていくための取組を行うことを共有しました。参加した小中学生から「このような場は初めてだったけれど中学生の先輩が話しやすい雰囲気をつくってくれた。」「安心して話し合いに参加することができた。」「3校で話すようになるほどという意見が聞けた。これで終わりではなくクラスで何ができるかなど考えたい。」という振り返りの言葉がありました。



円卓型ホワイトボード(えんたくん)に次々書き込みながら進行。書き込みをしながら次第にみんなのコミュニケーションが広がりました。



## 後期生徒会委員会認証式では所信表明がありました

11月30日(月)市ケ尾中学校令和2年度後期生徒会委員会の認証式を行いました。1,2年生にとっては、これまで市中を引っ張ってきた3年生からバトンを受け継いでいくことを確認する良い機会にもなりました。全ての委員代表から、市中を良くしていきたい、市中のみんなにとって「居心地の良い学校」となるよう、委員会の活動にしっかり取り組んでいきたい等、頼もしい言葉が聞かれました。

第36期生徒会会長北川さんからは次のような所信表明がありました。

2つの目標を生徒会長として達成していきたい。1つ目はSDGsの取組について伝えていくこと。

2つ目はあいさつ運動の活性化。生徒会の活動目標である「『共助共笑』市中から世界を変えよう」を意識していきたい。この目標には共に助け合って、共に笑い合うという意味がこめられている。皆さんにとって居心地の良い市中になるため、精一杯頑張りたい。

居心地の良さが感じられる学校を生徒の皆さんと教職員とともに作っていきましょう。

## スクールカウンセラーより ストレスをためずに、気軽に相談を

SC 長谷川良子

校門脇の花壇をいつも楽しませていただいています。今秋、スズランが赤い実をつけることを知りました。スズランは可憐な白い花を咲かせ、良い香りを放つ一方で毒を持つといわれていますから、お手入れをしてくださっている方々は、気をつけて扱ってくださっているのだなと一層有難く感じています。長野県に入笠山という南アルプス最北部にあたる山があり、そこに100万本のスズランを見に行ったことがあります。香りはするのに花が見当たらずに不思議に思っていたら、日本スズランは葉に隠れるようにして咲くのだと教えてもらいました。奥ゆかしい！

私の楽しみの一つは、山歩きや畑仕事手伝いです。ところが、コロナ禍の外出自粛、それらがほとんどできなくなってウズウズ。気象庁が生物季節観測を大幅に縮小する報道があり、都市化や社会の変化によるということですが、寂しく感じています。そのような中、今年の紅葉はとても美しいので、街路樹の落ち葉に見とれながら、街歩きを楽しむようにしています。

みなさんも、コロナ禍にあって、さまざまなストレスを感じておられることでしょう。頭痛、腹痛、不安、イライラ、不眠、集中できない、楽しめない等など。脳科学者の茂木健一郎さんは、イライラしたら、その原因を究明するよりも、体を動かすこと～ランニング、ウォーキング、ストレッチなど～をすすめておられます。ストレスを貯めやすい人は、自分でコントロールできないことは諦める。ストレス解消するには、自分を知ることが大切で、表現することで自分を知ることができるといわれています。(たとえば、ダンス、歌う、絵を描く、詞や文章を書く、おしゃべりする等などでしょうか。)しゃべるときは、自分の中でまだあいまいではっきりしていないときに、とりあえず、誰かに話してみるとよいそうです。全米で4人しかいないエピソード記憶力保持者が、学校では暗記の勉強が不得手で40歳すぎまでその能力に気づけなかった例をあげておられます。その方は、他の人もみんな同じ記憶力を持っていると思込んでいたそうです。欠点があつて当たり前、個性は脳の前頭葉でも一番あとから発達するところのものだから、長い目で得意を探し大切にして、自分を好きになってほしいといわれています。

市中のカウンセラー室では、安心してゆったり話せる環境を用意しています。その場でほっと一息、思いつくまま語っていただくことで、なにかしらご自分で発見し気づいていただくことを大切にしています。どうぞ皆さんの命の輝きが増しますように。

コロナ第3波が心配される昨今ですが、春、夏と乗り越えてきた私たちです。みんな、"だれもひとりぼっちにさせへん"(精神科医の安克昌さんの言葉)スクラム組んで乗り越えていきましょう！

**★12月の開室日は、3日、10日、17日の各木曜日です。相談時間は、9:30~16:30(予約制)**

**専任や担任の先生等を通して、または、直接SC用電話(045-972-0335)でお申し込みください。電話相談もお気軽にご利用ください。**

SDGsの目標「4. 質の高い教育をみんなに」

## 今年度の「はまっ子読書の日」に向けた取組



### Life with Reading ～読書の秘訣～

学校司書 梶村 ちほ

みなさんは、今、読んでいる途中の本はありますか？

市ヶ尾中学校のみなさんでも本をたくさん読む人と、漫画中心の人、あまり読書の時間が取れない人がいますよね。かく言う私も本を読むのは大好きですが、家事も何もしないで読書ができたらどんなにいいか

と思いますし、本とともに仕事をしている割には好きな本をじっくり読むのはできていません。でも、本は読みたいと思っている。そんなふうに本を読もうと思うけど、なかなか時間をとれないとか、どんな本を読んではいいかわからないとか、読書にまつわる悩みをみなさんそれなりにお持ちなのではないかと思います。

10月27日の放課後に「はまっ子読書の日」の取組として行った図書委員会ワークショップ「Life with Reading～読書の秘訣」は、そんな読書にまつわる悩みを解決して、読書を楽しむためのコツをみんなでシェアする、そんな取組でした。図書委員の皆さんとゲストの大人の方とがグループに分かれて、27枚のカードから自分の心に響いた1枚を選んで、それをもとに読書についてあれこれ語り合い、より良い読書に近づいていく。慶應義塾大学の井庭研究室と株式会社有隣堂が共同開発したこのカードは「パターンランゲージ」という学びの手法で作られていて、読書がよりやりやすくなる仕掛けが詰まっています。

開始前は不安そうだった図書委員のみなさんでしたが、終了後の感想には「読書の仕方の中で他の人との共通点を見つけられてよかった。」「本を表紙で選ぶ人がいて、説明を聞いてなるほどと思った。」「自分なりの読み方があることが分かったし、意外とみんな同じことをやってたこともわかった。」とあって、読書の仕方のヒントを得ることができたようです。そして「本の話を通して仲良くなれてよかった。」「こんな風に本のことを人と話したことがなかった。」「読書のやり方を共有するということが新鮮だった。」「友達を巻き込んでみたくなった。」と、人と「対話」すること自体の楽しさを発見し、喜びを感じているようでした。図書委員会の各チームもまとまりが強くなりました。楽しく和やかな時間の中で「質の高い読書」に一步近づいて、楽しみながら今年度の図書委員会のSDGsの目標「4. 質の高い教育をみんなに」につながったのではないかと思います。

コロナウイルスの感染状況がなかなか改善されない中で、コミュニケーションを取ることに心理的な制限がかかってしまう今日ですが、「対話」をすることがもたらすもの大切さを感じるワークショップでした。読書について語り合い、昨日までよりちょっとだけ「質の高い読書」ができるようになったら、そして、そんな思いをシェアできる仲間が身近にいたら豊かな人生になるんじゃないかなと思います。学校図書館ではいつかもっと多くのみなさんと「Life with Reading～読書の秘訣」のワークショップをやりたいと考えています。

